



【祝福される幸いな家庭の十戒①】

聖書本文：出エジプト記20章1節-3節/申命記6章4-6節/暗唱聖句：申命記6章4-5節

説教者：鄭南哲牧師

(Rev. Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん、一週間もお元気でしたか。6月の最後の主日朝の礼拝に来られたみなさんを心から歓迎いたします。残りの6月と始まる7月中天の恵みの倉を開き、みなさんのご家庭の上に必要な神の特別な恵みと祝福を満ち溢れさせて下さるよう救い主イエスキリストの御名によって祝福します。

神様が地上で始めて造って下さった人の関係は夫婦、そして家族というものでした。そして、神はその家族を祝福されたのです。詩篇127篇1-3節です。“主が家を建てるのでなければ、建てる者の働きはむなし。…あなたがたが早く起きるのも、おそく休むのも、辛苦(しんく)の糧を食べるのも、それはむなし。主はその愛する者には、眠っている間に、このように備えてくださる。見よ。子どもたちは主の賜物、胎の実は報酬(ほうしゅう)である”

今も神は我らの家庭を祝福されようとするお方である事を信じているでしょうか。

今日どなたでもそれぞれ自分たちの家族が一番大切であり、祝福の源であるということに関して知らない人はあまりいないと思います。しかし今日の現実の多くの家庭の様子は仕事、会社、自分の趣味、他の知り合い人々に後回しにされ、放置されている時が多いです。お父さんはお父さんなりに、妻は妻なりに、子供は子供なりに家族がばらばらになってしまい一緒にいる時も少なくなりました。そのためなのか、もう家族と一緒にいる時さえも、それになれず、みんなそれぞれ、孤独感、寂しさを感じ、抱いている家族関係がますます増えている現実はとっても残念なことではないでしょうか。

もちろん、我々の家族かならず、いつも笑顔で、良い事ばかりあるべきという考えや姿を望んでいるわけではありません。家族だからこそ、共に思わぬ問題が起こってしまってもみんなが悩む時もあり、つらい時や苦しい時もあるでしょう。その中でも我々の一番の願い、望みとすれば、その中でも我が家族、家庭がさらに神の祝福を受け、その祝福を分かち合い、分け与える我々の家族、家庭になれるかであります。

すると、愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！神のその祝福を続けて、さらなる祝福を受ける鍵は何でしょうか。私は神が与えて下さった十戒はすべての家庭の祝福と繁栄を頂ける為の神からのお手引きであり、取扱書であると信じ、確信しております。

今日私たちの家庭に色々な必要なアイテムがあるでしょう。例え、お金や健康、楽しみ、仕事、名誉などですね。しかし、主客が代わって、それに度を過ぎるほど依存してしまう時、私たちの家庭は崩されやすくなってしまいます。代表的なキリスト教哲学者としてスイスでラブラー運動を導いていたフランシス・シェパー(Francis Shaffer)という博士は現代人たちが19世紀から20世紀に変わる間、‘絶望の線’を越えたと言いました。つまり歴史上一番危険な変化が起こってしまったということでした。つまり、19世紀の時までも、クリスチャンか否か関係なくみんなが共有する絶対的な価値観がありました。たとえば、十戒の5戒以下は、[あなたの親をうやまいなさい。殺人してはいけない。姦淫してはならない。ウソをついてはいけないなど]を言うと、信じていない人々であつてもそれは人として当然であり、当たり前前に“それは確かにその通りでしょう。”と同意する反応がありました。20世紀に入り、いわゆるポストモダン(Postmodern)と言われる時代に入ってから、今日の多くの人々はそのような絶対的な価値観を放棄しました。つまり、絶対的なことは存在しないと。絶対的な神様も。絶対的な価値観も、絶対的な真理、絶対的な倫理、絶対的な愛など絶対的なことはもう古く、そういうものはなく、ただすべてが人によって、相対的で、各考え、価値観によってただ違うのだという脱却(だっきやく)しようとする思想であります。(例え、夫婦が姦通しても仕方ないのような？最近韓国での差別禁止法とか、日本の場合には1947年10月26日の刑法(けいほう)改正によって、姦通罪は廃止された)。これによって人々から見れば、とっても格好良く、さらに自由になったように見えますが、かえて私たちの子供たちは何が一体正しいのが、間違いなのか、混乱し、家族の主婦たちが、夫たちが、子供たちもさまよってしまう時代となってしまいました。私は今日の家庭の混乱はこのような時代的な流れにその根本的な原因があると思っております。ですから健康な家庭、祝福される家族となるためには周りの環境や外部的な形ではなく、聖書の価値観の回復から立てあげられるべきだと信じます。そうです。祝福される健康な家庭は単純に雰囲気や環境を変える程度では出来ません。神が建てて下さった本来の家族、家庭への価値観に戻る根本的な土台作りが緊急に要求される時点ではないかと思えます。

神の十戒の同じ内容は出エジプト記20章と申命記5-6章にも記録されていますが、この十戒の結論部分を‘シェーマ’と言います。シェーマは‘聞きなさい’という意味であり、私たちがきざみつけるべき御言葉である申命記6章4-6節に“聞きなさい。イスラエル。主は私たちの神。主はただひとりである。5心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。6わたしがきょう、あなたに命じるこれらのことばを、あなたの心に刻みなさい。”から始まっています。このシェーマが記録された申命記6章の始まりである1-2節を読んでみると、本来、神の十戒は家族のため家庭に与えられた御言葉であることが分かります。

「これは、あなたがたの神、主が、あなたがたに教えようと命じられた命令-おきてと定め一である。あなたがたが、渡って行って、所有しようとしている地で、行うためである。それは、あなたの一生の間、あなたも、あなたの子も孫も、あなた

の神、主を恐れて、私の命じるすべての主のおきてと命令を守るため、またあなたが長く生きることのできるためである。」続けられる3節ではこの御言葉をつかんで生きるなら、神によって建てられた家庭が幸せになり、その子孫までも祝福されると約束されています。

ですから、シェーマの核心はこれです。神様の教えとおきてが与えられた目的がさらなる家庭の幸せと長寿、健康、祝福を頂くためであり、神を愛する家庭では十戒を通して親はその子供に、そしてその孫にまで代々、教え従うことになるです。ですから、神様から与えられたこの十戒が私たちをさばき、拘束させ、押さえつけ、しぼりつけるためでは決してないことを私たちは覚えましょう。祝福され家庭のカギは神様から与えられたこの十戒を正しく知り、覚え従う事こそがカギであるがわかります。

今日の本文として読んだ出エジプト20章は十戒が与えられた大切な理由と背景を説明することから始まっています。今日の本文2節をもう一度読んでみましょう。“わたしは、あなたをエジプトの国、奴隷の家から連れ出した、あなたの神、主である。”

イスラエルの民をエジプトの地、奴隷の生活から救い出して下さった神が、これから新しい約束の地で神の祝福と恵みを体験しながら生きるための基準の御言葉として与えられました。つまり、十戒とは救われるための法則ではなく、すでに救われた神の民、神の家族が神の前で祝福されて行くための人生の法則であり、家庭の祝福の法則だったのです。

<自分の中に生きている偶像はないでしょうか。>

すると、今日の始めてその十戒の中で一つ目の祝福の法則は何でしょうか。

“あなたは、わたしのほかに、ほかの神々があってはならない。”(出エジプト20:3、申命記5:7)

“神”という単語を一番一般的で、宗教的な意味で定義すると、‘人間が人生の諸問題において究極的な解答として信じ、たよれる全知全能の絶対的な存在。’だと言えます。

愛するみなさん！通り一編に考えて見ると、神のような存在が多ければ多いほど良さそうで、長い人類の歴史の中で、人間はできれば多くの神々を作りあげ出しました。インドには数億の神々が存在し、私たちが住んでいるこの日本だけでも8百万の神々を作って拝んでいます。新約聖書にある使徒の働き17章16節から読んでみると、パウロがギリシャのアテネに行った時に町中人々によって多く彫刻(ちょうこく)されていた神々の像が作られていて、人々がそこに拝んでいました。その神々が多くて一体どんな神なのかすら、人々は知らず‘知らない神々に’祭壇を作って拝んでいたと書かれています。聖書ではこのように創造主なる真の唯一な神以外に、人によってつくられ、拝まれているあらゆる神々を偶像だと言えます。

反面、聖書に書かれている創造主の神は人によって作られた存在ではなく“自らおられる方”、“被造物ではない唯一の創造主”だと記されています。出エジプト記3章14-15節には創造主の神はモーセにご自身がどんなお方であるかを教えて下さっています。

「神はモーセに仰せられた。『わたしは、『わたしはある。』という者である。』また仰せられた。『あなたはイスラエル人にこう告げなければならない。『わたしはあるという方が、私をあなたがたのところに遣わされた。』と。』15 神はさらにモーセに仰せられた。『イスラエル人に言え。あなたがたの父祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神、主が、私をあなたがたのところに遣わされた、と言え。これが永遠にわたしの名、これが代々にわたってわたしの呼び名である。』ここで、わたしは、『わたしはある。』という者である。』という意味は「I am that I am」あるいは「I am who I am」あるいは「I will be who I will be」つまり、わたしは自分で自ら以前も、今も、これから永遠に変わらずおられるのだという意味であります。その意味で原語の聖書では“わたしはヤウエ(YHWH)・エホバ(JHVH)である”という意味で書かれているわけです。

創世記1章と聖書の最後の黙示録にも読んで見ますと、自ら変わらず永遠におられる神は人も、全ての万物も造られた全能なる創造主の神(エロヒム・エルシャダイ)であられる事も教えて下さっています。(創世記1:1-“初めに、神が天と地を創造した。”・ヨハネの黙示録4:11-“主よ。われらの神よ。あなたは、栄光と誉れと力とを受けるにふさわしい方です。あなたは万物を創造し、あなたのみこころゆえに、万物は存在し、また創造されたのですから。”)

申命記32章39節「主は言われる…今、見よ。わたしこそ、それなのだ。わたしのほかに神はいない。わたしは殺し、また生かす。わたしは傷つけ、またいやす。わたしの手から救い出せる者はいない。」

イザヤ書43章10節「わたしより先に造られた神はなく、わたしより後にもない。」

イザヤ書45章21-22節「わたしのほかに神はいない。正義の神、救い主、わたしをおいてほかにはいない。

地の果てのすべての者よ。わたしを仰ぎ見て救われよ。わたしが神である。ほかにはいない。」

イザヤ書64章8節「しかし、主よ、あなたは私たちの父です。私たちは粘土で、あなたは私たちの陶器師です。

私たちはみな、あなたの手で造られたものです。」

イザヤ書66章2節「これらすべては、わたしの手が造ったもの、これらすべてはわたしのものだ。」

この聖書の創造主の神について、ヨハネの福音書17章3節に、「その永遠のいのちとは、彼らが唯一のまことの神であるあなたと、あなたの遣わされたイエス・キリストとを知ることです。」と記されているようにこの神を正しく知り、信じること

によって救われ、永遠のいのちを受ける祝福が与えられると聖書は約束されています。しかし、今日までもこの創造主なる神を知らず、今日もたえず、さまざまな神々を作って拝んでいます。

アメリカの有名な聖書神学者であったルイス・バルコフ(Berkhof)は人間をこのように名づけました。

“治療不可能な宗教的な (incurably religious)存在”だと。つまり、我々人間は限界があり、それを知っているため絶対的な存在への信仰を持つとすることです。それに自分は何の神も信じない、何の宗教も持たないといっている人々でさえも何かの存在に頼っている何かがあるということです。生きておられる真の神様を信じているなら、その方において生きる、その方の助けと恵みによって生かされ、その真の神様と交わりつつ従いながら祝福されて行くことが当然かも知れません。

しかし、愛するみなさん！ 他色々な神々を信じている人々の場合を見ると、自分たちが必要な時に助け、いつも自分が願っている通りかなえてくれる存在だけで、その以外は自分の生活や人生に干渉(かんしょう)する神はいらないと思っているのではないのでしょうか。これは矛盾に違いありません。そしてそのように人間が望み通り、ただ人間に無条件的に従ってくれる神が真の神なのか疑問に思わざるを得ません。

神とは我々が信じて頼る存在だと申しあげました。ドイツの宗教改革者であったマルティンルーター先生は“今自分の心の中で頼りにしているものが自分の神になっているのだ。”だと指摘しましたが、みなさんにはまことに信じて頼っている存在は何でしょうか。

今日聖書本文の御言葉に戻りまして“わたしのほかに”という表現は本来の原文だと“唯一真の神であるわたしの前で”という意味であります。神様はその方の前でその方とまるで競争相手になるもののようなものを決して容認(ようにん)できない方です。つまり、真の神様の御前で神様が一番忌み嫌って赦されないことは真の神様を信じますと頼りながら、人によって作り上げた偶像の神々をも信じ頼っていくことであると明確に教えて下さっています。(夫が、妻がちゃんというのに別の人も？ 赦せないのは当たり前でしょう。)

＜我々を誘惑する偶像の神々＞

現代人の代表的な偶像の神をいくつか出して見ながら、自分がもしかすると神様を信じていると言いながらつかまっているほかの偶像の神々はないか自分を点検してみたいと思います。

* マンモン偶像＝金、物の神があります。

まず、‘マンモン’という偶像があります。つまり、お金や物などそういった物質がすべてそれが人に絶対的な神のようになっている場合、それがマンモンの神に拝んでいると言えるでしょう。もちろん、人が生活をするために金や物質は当然必要です。それを否定したり、決して軽く思うことではありません。

この場合、はじめ人はお金や物が必要だから物質を得るために必死に追及しますが、ある程度物質が手にいれていても、満足出来ず、さらにその物質が自分の人生の幸福と安全と人生のすべてを守ってくれると信じ込んでしまい場合です。そしていつのまにか物質が自分の全てであり、それによって左右されるまで神みたいになり、物質を拝み始めます。歴史人はこれを‘拝金主義(はいきんしゅぎ: 金銭を一番大切なこと)’だと言います。(結果: 金によって家庭が崩れたり、夫婦関係が分かれたり、親子や兄弟関係が縁切り見たいになったり、一番愛し合い、助け合うべき家族関係の中金の問題で様々な残酷な問題や事件がしょっちゅう起こっているのではないのでしょうか。金を愛し、それが多くなればなるほど、それに拝んでしまうと神だけではなく、神によって造られた人や家庭を後回され、無視してしまいかちになります。)

創造主の真の神より上位価値として金の神をつかまったり、両方に愛し、拝んではいませんか。もし、私たちがお金をもうけるためにイエス様を信じているならば、私たちの中には神様よりもっと大きくマンモンの偶像を拝んでいる事になります。私たちが神様の御言葉のとおり信じ、従って生きるなら、物質の祝福は必要に応じて私たちについて来ることはありませんか。

今世界的にコロナの為、厳しい経済危機の状態を過ごしています。この中にあってもみなさんは神様のみを愛し、真の神のみを信じてたよっているのか自分の信仰を確かめる必要があります。

* 快楽の偶像の神

神様は決して正当で、健康な楽しみを裁かれません。かえて家族がともに味わう楽しさを神様の祝福だと教えます。

旧約聖書伝道者の書9章9節によると“日の下であなたに与えられたむなしい一生の間に、あなたの愛する妻と生活を楽しむがよい。それが、生きてる間に、日の下であなたがする労苦によるあなたの受ける分である。”と言われました。しかし快楽そのものが生きる目的になってしまった場合、その快楽はすでに偶像になっている事です。あらゆる中毒とは快楽の神に従った姿です。人々がアルコール中毒になる理由は何でしょうか。アルコールが与える快楽のためではないのでしょうか。麻薬中毒は麻薬の快楽にはまることです。かけごとにふけることは賭博の快楽にはまるからです。インターネット中毒はインターネットの快楽にはまることです。セックス中毒も恐ろしいことです。夫婦生活ではない性的快楽の追求はこんにち家庭を破産させる一番おそろしい中毒として急増しています。ショッピング中毒もあります。ショッピング中毒によってもこんにち危機に陥っている家庭も少なくありません。愛するみなさん！ 家庭の中での健全な快楽は必要ですが、中

毒性的な過度な自分がコントロールが出来ないほどの快樂は私たちを信仰、理性を麻痺させ、結局自分のまことの存在を失わせるので、気をつけなければなりません。

<健康で祝福される家庭のカギ>

アメリカのフラー神学校で家族社会学を教えているジャックボルスウィック(Jack O.Balswick)教授はこんにちの家庭を伝統的な家庭、現代的な家庭、聖書的な家庭に分類して説明します。

ところが、この三種類の家庭は誰が家庭の主人なのかによって違って来ると言いました。親か夫が家父長(かふちょうてき)的権威(父親=まるで神のような存在)をもっている家庭を伝統的な家庭の主人だとすると、現代的家庭ではだれも主人がいません。伝統的家庭には厳格(げんかく)な秩序があるかわり、強制と相通がなく一方的な面があります。反面、現代的家庭には自由はありますが、混乱と無秩序があります。すると、聖書的な家庭の主人は誰でしょうか。

当然、神様です。そして神様と神様の真理がおさめ導く家庭の特徴は秩序と自由が共存されるのです。なぜなら、神様は秩序の神様であり、神様の真理は私たちを自由にさせ、神の祝福がながれるからです。

ラルフガルボク先生は【家庭の祝福】という本を書きましたが、その中で、“神が信じる者たちを祝福するのと同じように親は家庭の神様の祭司としての特権を持っている。神の祝福を親も子供たちに流れさせ祝福すべきである。子供に対する神の祝福の力は偉大である。波のように押し寄せて来る様々な誘惑と戦いから守ってくれる保護まくになれるからだ。その愛の保護膜は神様からさずけられたものである。”

愛するみなさん! 祝福される健康な家庭の秘訣の始めは意外ととてもシンプルで単純です。人の限界あり、変わりやすい、不完全な人の考え、感情と経験、基準によって支配される家庭ではなく、神と変らない神様の御言葉の基準と信仰の土台の上に建てられ、神の祝福を受ける家庭です。

どうやってそのようになりますか。我々の家族の構成員の心を一つにし、信仰を一つにし、まず我々が真の神様のみを信じて、以外他のさまざまな偶像なものに心を置かず、それから離れることなのです。

出エジプト20章2節で神様が言われた“あなたの神、主である。”だれでも、どんな家庭でも真の唯一な創造主なる神のみを心から受け入れ、その創造主の永遠の神のみを自分の神として信じ、告白すると、その神様がみなさんとみなさんの家庭の神となって下さって必ず祝福して下さいます。

イエスキリストは真の神を表し、我々を救い、回復させるために来られた神様の御子です。私たちが真心をもってイエスキリストを人生の救い主として心開き受け入れる時、そしてその方に自分のみならず、自分の家庭を明け渡し、より頼む時、神様は我々の心と家庭を治めてくださると信じます。

今日みなさんにも旧約聖書に書かれているヨシュアの家庭のように神を信じ、神と人々の前で告白がありますように切にお祈り申し上げます。ヨシュアも全能なる神と全イスラエルの民の前でこのように告白しました。ヨシュア記24章14-15です。“14今、あなたがたは主を恐れ、誠実と真実をもって主に仕えなさい。あなたがたの先祖たちが川の向こう、およびエジプトで仕えた神々を除き去り、主に仕えなさい。14もしも主に仕えることがあなたがたの気に入らないなら、川の向こうにいたあなたがたの先祖たちが仕えた神々でも、いまあなたがたが住んでいるエモリ人の神々でも、あなたがたが仕えようと思うものを、どれでも、きょう選ぶがよい。私と私の家とは、主に仕える。!!”

もう一度、共に神様の導きと御言葉に従って、創造主なる神様のみを信じて行きませんか。

みなさん、“天国を神の国だと言われますが、天国っていったいどんなところ?”と聞かれる子供たちにこのように答えることができますと思います。“天国は創造主なる真の神が永久まですべてを治めておられるところだよ。そして、私たちの家見たいなところなんだ。”と。言えるみなさんの家庭となりますように。今も遅れていません。もう一度改めて決心しはじめの瞬間、私たちの家族、家庭がさらに神が全てを治めておられる御国、天国のようなところとして変えられ祝福されていくと信じます。父なる神の愛と主イエスキリストからのその豊かな祝福と恵みが今週からはじまる新たな7月にも、今クリスチャンプレイズチャーチの全家族の上に、みなさんの家庭上に限りなく豊かにありますように祈ります。アーメン!



-【神様の御名】(The meaning of God's name)に含まれているいろんな意味 -

神がどのようなお方であるかを日々瞬間瞬間自分に、祈りの中に宣言しましょう。

聖書をよく読んで見ますと、我々が信じている唯一な神がさまざまなお名前の意味をお持ちであることをご存知ですか。それぞれの神様の呼び名は、神のご性質と我々への力と御恵みの一面を表しています。次の8つの名前に注目しながら、神がどのようなお方であるかを考え、思いめぐらして見ましょう。

【共におられる神】(THE LORD is there.)

アドナイ・シャンマ (Jehovah-Sammah) 「主はここにおられる」

『その日からこの町の名は、『主はここにおられる』(エゼキエル書48:35)

:あなたはここにおられます。私は決して一人ではありません。

【羊飼いなる神】(The LORD is my shepherd, I shall not be in want.)

アドナイ・ロイ(ラア) (Jehovah-Rohi or Raah) 「主は私の羊飼い」

『【主】は私の羊飼い。私は、乏しいことはありません』(詩篇23:1)

:あなたは私を導き、養い、守ってくださいます。



【備え主なる神】(The LORD Will Provide.)

アドナイ・イルエ (Jehovah-Jireh) 「主の山の上には備えがある」

『そしてアブラハムは、その場所を、アドナイ・イルエと名づけた。今日でも、「【主】の山の上には備えがある」と言い伝えられている。』(創世記22:14)

:あなたは私が願う前から、私の必要をご存知です。

【癒やし主なる神】(For I am the LORD, who heals you.)

アドナイ・ラファ (Jehovah-Rapha) 「わたしは主、あなたをいやす者である」

『そして、仰せられた。「もし、あなたがあなたの神、【主】の声に確かに聞き従い、主が正しいと見られることを行い、またその命令に耳を傾け、そのおきてをことごとく守るなら、わたしはエジプトに下したような病気を何一つあなたの上に下さない。わたしは【主】、あなたをいやす者である。』(出エジプト記15:26)

:あなたは、私の体、心、すべての関係を癒やすことがおできになります。

【義なる神】(The LORD Our Righteousness.)

アドナイ・ツイケヌ (Jehovah-Tsidkenu) 「主は私の正義」

『その日、ユダは救われ、イスラエルは安らかに住む。その王の名は、「【主】は私たちの正義」と呼ばれよう。』(エレミヤ書23:6)

:あなたはありのままの私を受け入れ、イエス・キリストによって赦してくださいます。

【聖なる神】(I am the LORD, who makes you holy.)

アドナイ・マカデシュケム (Jehovah-Mekoddishkem) 「わたしはあなたがたを聖なるものとする主である」

『あなたがたは、わたしのおきてを守るなら、それを行うであろう。わたしはあなたがたを聖なる者とする「主」である。』(レビ記20:8)

:あなたは私を清めて、キリストに似たものとして下されます。

【平安の神】(The LORD is Peace.)

アドナイ・シャロム (Jehovah-Shalom) 「主は平安」

『そこで、ギデオンはそこに【主】のために祭壇を築いて、これをアドナイ・シャロムと名づけた。これは今日まで、アビエル人のオフラに残っている。』(士師記6:24)

:あなたはどのような状況にあっても平安を与えてくださいます。

【勝利の神】(The-LORD-Is-My-Banner.)

アドナイ・ニシ (Jehovah-Nissi) 「主はわが旗」

『モーセは祭壇を築き、それをアドナイ・ニシと呼び』(出エジプト記17:15)

:あなたは戦いや対決の日に際して私の勝利とされます。

